

就労者を励まし地域を活性化

阿蘇ロータリークラブが「職業奉仕賞」を贈呈



左からロータリーの志賀昭男会長、軸丸氏、甲斐氏

阿蘇ロータリークラブ（志賀昭男会長）は、就労者を多に励まし地域の発展につなげようと、「職業奉仕賞」を設け、毎年贈呈しています。今年も、技術邁進と後進の育成等に永年努められている理容業の甲斐許義さん（内牧）と建具工の軸丸鉄男さん（古神1区）に贈られました。

甲斐さんは、全国理容競技大会敢闘賞、県理容技術選手権大会優勝などの経歴の持ち主で、現在、熊本理容組合理事。軸丸さんは、平成23年度優秀施工者国土交通大臣顕彰を受賞。現在、中通の笹原木工所で後進の育成に尽力されています。

256チームが120日間無事故無違反達成！

春の全国交通安全運動推進会議



春の全国交通安全運動推進会議が3月14日、阿蘇勤労者いこいの村で行われ、会議終了後、「120日間無事故・無違反」達成者の抽選会がありました。

この企画は、阿蘇地区安全運転管理者等協議会（渡邊富廣会長）が阿蘇市・産山村に居住または勤務している方を対象に3人1組でチームを組んで運動に参加するもので、毎年実施されています。

今回は277チームが参加し256チームが達成しました。同協議会では、この他、HSR研修やハンドプレートキャンペーンなどを行い年間を通じ交通安全の意識向上を図っています。

卒業生が阿蘇の名物料理に挑戦！

一の宮中学校郷土料理実習



地域の食文化に関心を持ちその意義を理解してもらおうと、一の宮中学校では、家庭科「食生活と自立」の学習に郷土料理実習を取り入れています。

今年も、阿蘇の名物でもある「高菜めし」「だご汁」に挑戦。生徒たちは包丁や火に緊張しながらも、阿蘇市食生活改善推進員協議会の指導により懸命に調理を進め、色々な知識が身に付き嬉しそうでした。

そして、さすが阿蘇っ子。「高菜めし」「だご汁」は大好きな食べ物だそうです。

茶の精神で育む豊かな心

りんどう保育園『お別れ野点』



りんどう保育園で3月5日、卒園を前に年長児（19名）が年中児と保護者を招き、『お別れ野点』と題したお茶会が行われました。

このお別れ野点は、お茶ごっこを通して礼儀作法や心を育てる取り組みとして、年長児が1年に渡り稽古した成果を披露し、年中児と保護者に作法を教えるというもので、昭和52年から行われています。

お茶会では、手慣れた作法でお茶を点て、「すはま」と呼ばれるお菓子と点てたお茶を振る舞い、ひとつひとつ丁寧に作法を教える可愛い園児たちを見て、参観する保護者から笑みがこぼれました。

世界ジオパーク認定を目指して。 阿蘇ジオパークシンポジウム開催

今月の **Pick up!**



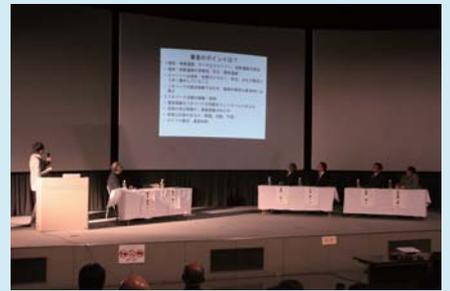
▲基調講演をする尾池和夫氏。

阿蘇市を含む阿蘇地域8市町村が一丸となって世界ジオパークネットワーク認定を目指す中、改めて阿蘇地域の新たなツーリズムの形「阿蘇ジオパーク」について考える取り組みとして、阿蘇ジオパーク推進協議会主催による『阿蘇ジオパークシンポジウム』が3月7日、阿蘇火山博物館で行われ、県内外から約200名が参加しました。

まず、同協議会の会長を務める佐藤義興市長の挨拶に始まり、日本ジオパーク委員会委員長であり(財)国際高等研究所長の尾池和夫氏による、「世界の阿蘇ジオパークをめざして」と題した基調講演がありました。

地震学を専攻される尾池氏は、地震と絡めた日本列島の歴史や巨大地震のメカニズムに触れ、「阿蘇の特徴をいかに売り込んでいくかが重要」と、世界認定への取り組みの重要性について話されました。

また、「ジオパークの活用と、世界申請に向けた阿蘇ジオパークの課題をテーマに、ジオパークに関わる有識者によるパネルディスカッションが行われ、それぞれの目線で、世界認定への取り組みや課題について活発な意見が飛び交い、今後の世界認定に向けて、大変価値のある有意義なシンポジウムになりました。



▲パネルディスカッションの様子。

社会人野球のレベルの高い技術を学ぶ

熊本ゴールデンラークス野球教室



熊本県社会人野球（企業）チームによる野球教室が3月4日、農村公園あびかで開催され、小・中学生併せて124名が参加し、ゴールデンラークスの選手から、ストレッチや守備、バッティングと野球の最前線の技術を習いました。

教室では、選手によるデモンストレーションも行われ、参加者は技術の高さに驚いていました。

熊本ゴールデンラークスの山内主将は、「今日学んだことを日頃の練習で生かして、これからの野球人生において、ひとつでも役に立てたら嬉しい。」と参加者に対し話されました。

税に関する絵はがきコンクールで最優秀賞

第3回税に関する絵はがきコンクール



法人会主催「第3回税に関する絵はがきコンクール」で、乙姫小学校6年（現中学1年）の石本美津妃さんの作品が見事、熊本県で最優秀賞に輝きました。さらに南九州地区でも2位になり、全国大会への出品が決まりました。

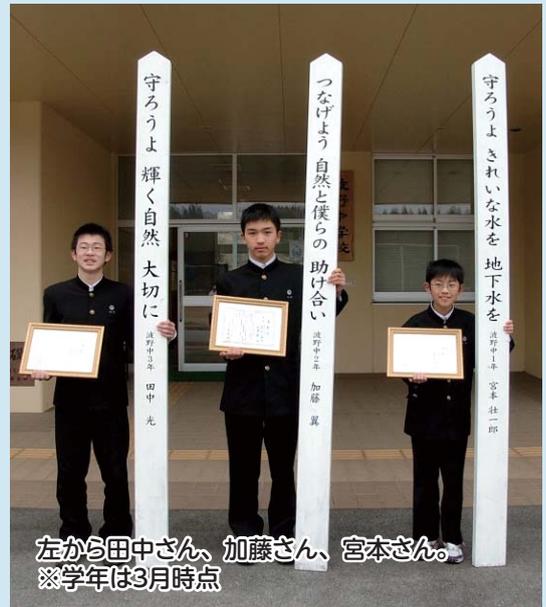
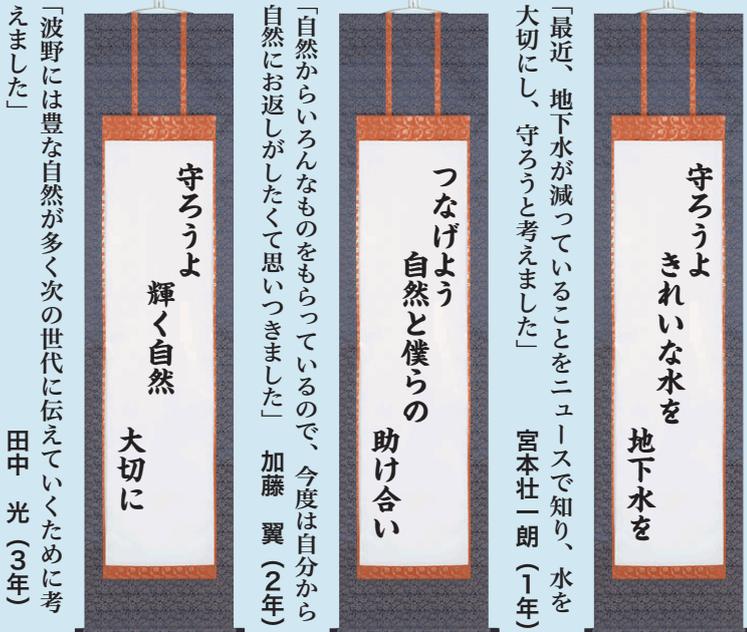
このコンクールは、税に関する活動に取り組む法人会が、小中学校で行う租税教育の一環として募集したもので、阿蘇市内では3校が参加しました。

3月19日は贈呈式があり、石本さんへ阿蘇税務署法人会女性部長小笠原邦子さんから表彰状と記念品が贈られました。

今月の Pick up!

和みフラワーロードに僕たちの標語が立ちます!

花の植栽活動に取り組む、波野の高柳和みの花みちの会（大塚國勝代表）では、子どもたちに自然や環境について考える機会を設けたいと、毎年、波野中学校の生徒に標語を募集し、優秀作品をフラワーロード内に建柱しています。今年は次の3人の作品が選ばれました。



なべづる地区に美しい花々を!

なべづる地区に花プランター設置



3月4日、西湯浦ふれあいプラザ北外輪園で、西小園、西湯浦、湯浦、南宮原からなる、なべづる線地域の若者48人で結成した「なべづる大学」の環境学部主催で、プランターの花台の製作があり、地域の公民館に設置されました。

この取り組みは昨年から始めた、地域活性化活動の一環で、なべづる線地域の若者の連携と、『阿蘇の元気発信はなべづる線から』を合言葉に実施されたものです。「年間多くの企業、中高生が合宿でこの地域を気持ちよく走れるように」との、熱い思いも込められています。

まちづくりへの熱い思いを発表

阿蘇市地域づくり情報交換会



阿蘇市地域づくり団体協議会の主催で3月17日、農村環境改善センターにおいて、「阿蘇市地域づくり情報交換会」が開催され、地域づくりに関心のある多くの方の参加がありました。

第1部ではNPO法人ASO 田園空間博物館、古神繁栄会、波野旬菜グループ、手野名水会、内牧新町活性化福の会の5団体による地域づくり活動の発表が行われました。その後、紙芝居倶楽部による「阿蘇のおはなし」の公演をはさみ、第2部では情報交換会が行われました。

情報交換会では地域づくり活動のあり方や活動資金などについて活発な意見が交わされました。